

大崎産 ハウスマンゴー ただいま出荷中!



白山好弘さん(右端)

大崎町では、八年前から県内本土でいち早くハウスマンゴーの栽培を始め、現在は、十二戸の農家が百四十四アールで栽培し、そのうち四戸の農家が七月上旬まで、関東や関西、九州市場などに約六トンを出荷する予定です。

このハウスマンゴーはアーウィンという品種で、開花期から肥大期にかけて好天に恵まれ、生育は順調で着色も良好、糖度も十六度以上の完熟に仕上がっていて、木に掛けたネットに自然落下したものを収穫することです。



そのハウスマンゴー収穫祭が四月三十日、崎園集落の白山好弘さんの農園で行われ、その鹿児島農協の方々が出席したほか、特別ゲストとして大崎保育所の年長組の園児達(二十八人)が招待されました。

その鹿児島農協大崎支所果樹振興会の会長などに就かれている白山さんは、農業共済組合を昭和五十五年に退職され、就農。ハウスマンゴー八アールのほか、ハウスマンゴー八十九アール、露地も二十アールなどを栽培されています。



ハウスマンゴーは、ハウスマンゴーの収穫前に出荷が可能のため、平成六年に導入されましたが、特性に未知の部分が多く、日々、栽培管理や品質向上などに努めています。

収穫祭では、テープカットのあと、園児達が、赤く熟した甘い香りのするマンゴーを楽しそうに収穫していました。